

IR と IE の包括的な推進に関する事例検索システム

近藤伸彦（東京都立大学），山本幸一（明治大学），鳥居朋子（立命館大学）

1. はじめに

2000年代頃から、日本の大学においてIR（Institutional Research）の重要性が広く認識されるようになり、大学内外のさまざまな要請や必要性から各大学でIRが組織化されるようになってきた。とくに、2014～2015年頃からIRを専門で担当する部署が急増している[1]。日本式のIRのあり方が試行錯誤される中、実効的な継続的改善に結びつくIRの機能や組織をどのように構築するかが大きな課題となっている。

IRに関連する概念にIE（Institutional Effectiveness）がある。これは機関の継続的改善を促すための重要な概念としてとくに米国で発展したものであり、日本においても、近年の内部質保証への関心の高まりから注目が集めている。IE（継続的改善）を達成するためには、IRとIEが有機的に結びついた組織的な取り組みが必要であり、そのようなIRとIEの包括的推進は昨今の日本の大学における重要な課題であると考えられる。

著者らはこれまでに、IRとIEを有機的・包括的に推進するための知見の整理を目的として、全国のIR/IE従事者への調査を行い、収集した事例をもとに3つの柱からなるTipsを作成した。本稿では、このTipsを構成する具体的事例を利用者の関心に応じてわかりやすく示すことでTipsのより有効な活用を促進することをめざして作成した、内容の分類や大学の設置形態・規模によって事例を検索し表示するシステムについて紹介する。

2. IRとIE

浅野（2017）による米国におけるIR/IEの最新動向のまとめ[2]によると、米国において、IRやIEに関する明確な定義は存在しないが、IRは「諸活動の効果検証に向けて展開される情報収集、統合・分析、情報提供を支援する機能」として、IEは「機関が自らの使命に沿って展開する各種活動の成果についてIRが行う効果検証の結果に基づいて、成果に至るまでのプロセスを継続的に改善していく循環サイクル」として捉えられているとされる。

藤原（2015）は、大学における粒度の異なるアセスメントを整理し、大学全体の総合的な成果を示すものとしてIEによるアセスメントを位置づけている[3]。ここでは、大学全体の継続的改善の循環プロセスがIEであり、よく用いられる用語としての「PDCAサイクル」と同等のものとして捉えられている。さらに、「IEができている」状態となるには、IEは学内に「文化」として根付いている必要があること、またそのための重要な機能としてIRが存在するというIEとIRの関係性についても言及されている。

3. IRとIEの包括的な推進のためのTips

2で述べたように、IEという継続的改善プロセスを大学に根付かせるためには、IRとIEが独立に捉えられるのではなく、それぞれの目的と機能を整理し、包括的に推進することが必要であると考えられる。日本におけるIRやIEは、これが明確な機能として認

識されてからまだ日が浅いが、IRが専門職として確立している米国の大学とは異なり、ゼネラリスト志向の大学職員の人事制度など日本特有の文脈のもとでこれらが組織化され実践されていることから、すでに行われている各大学のIR/IEの実践事例には、IRとIEの包括的な取り組みを成功させるための数多くのヒントがあると考えられる。

この観点から、文献[4]では、日本の大学の実践事例に関するアンケート調査に基づき作成された、IRとIEを包括的に推進するためのTipsが報告されている。これは、日本の大学のIR/IE担当者を対象に、2019年12月から2020年1月にかけて著者らがオンラインで実施したアンケートをもとにまとめたものである。本アンケートには76名の回答があり、これをもとにTipsが構成されている。

本Tipsは、3つの柱と13のTipsから構成される。これらは、図1に示すように、IE（継続的改善）を支えるIR活動として重要と思われる3つの観点をそれぞれ「柱」として仮定し、これらがアンケート回答者の大学においてどの程度達成されているか、およびその理由や具体的事例を回答してもらい、その内容を定性的に分類してTipsの形にまとめたものである。3つの柱と13のTipsは以下の通りである。なお、これは[4]に示されたTipsを日本語で表現したものである。

《柱1：教職員や学生とのパートナーシップ》

- Tips 1-1 組織設計・環境づくり
- Tips 1-2 データを活用した会議・研修
- Tips 1-3 組織の文脈をふまえたIR
- Tips 1-4 学生からの意見収集とフィードバック
- Tips 1-5 大学運営への学生の参画

《柱2：リーダーシップへの効果的な報告》

- Tips 2-1 IE（評価）とFD（教育開発）とIRとの総合的マネジメント
- Tips 2-2 継続的かつ規定された学長のリーダーシップ
- Tips 2-3 自大学の固有の文脈の理解
- Tips 2-4 定義（規定）されたデータマネジメント

《柱3：有効な学習成果アセスメント》

- Tips 3-1 多面的な学習成果アセスメント
- Tips 3-2 基礎的なデータのわかりやすい可視化
- Tips 3-3 目標に照らした学習成果アセスメント
- Tips 3-4 国際的に通用するアセスメント

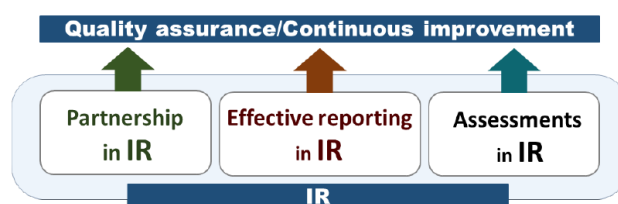


図1 IRとIE（[4]より引用）

なお、3つの柱に対応するアンケートの具体的質問は以下の通りである（ただし、紙面の都合上、質問自体の説明にあたる記述を一部省略した）。

《柱1に対応する質問》

質問1) 「IE（継続的改善）を推進するためのIR活動」という観点において、貴学のIR/IEは、教職員とのパートナーシップ（共同、協力、連携）が充実していると思いますか。最もあてはまるものを選択してください。

※「かなり充実している」～「全く充実していない」の5段階で回答

質問2) 上の質問1でのご回答に関して、貴学のIR/IEがそのような状況である要因や具体的事例をご回答ください（複数ある場合は、複数の事例をご回答ください）。

質問3) 「IE（継続的改善）を推進するためのIR活動」という観点において、貴学のIR/IEは、学生とのパートナーシップ（共同、協力、連携）が充実していると思いますか。最もあてはまるものを選択してください。

※「かなり充実している」～「全く充実していない」の5段階で回答

質問4) 上の質問3でのご回答に関して、貴学のIR/IEがそのような状況である要因や具体的事例をご回答ください（複数ある場合は、複数の事例をご回答ください）。

《柱2に対応する質問》

質問5) 「IE（継続的改善）を推進するためのIR活動」という観点において、貴学では、リーダーシップへの有効な報告体制・方法が整っていると思いますか。最もあてはまるものを選択してください。

※「かなり整っている」～「全く整っていない」の5段階で回答

質問6) 上の質問5でのご回答に関して、貴学のIR/IEがそのような状況である要因や具体的事例をご回答ください（複数ある場合は、複数の事例をご回答ください）。

《柱3に対応する質問》

質問7) 貴学では、「IE（継続的改善）を推進するためのIR活動」という観点において、有用な学習成果アセスメント（改善につながる有効な測定、分析、評価、アドバイス活動など）ができていると思いますか。最もあてはまるものを選択してください。

※「かなりできている」～「全くできていない」の5段階で回答

質問8) 上の質問7でのご回答に関して、貴学のIR/IEがそのような状況である要因や具体的事例をご回答ください（複数ある場合は、複数の事例をご回答ください）。

《ここまでの質問に当てはまらない事例に関する質問》

質問9) その他、「IE（継続的改善）を推進するためのIR活動」という観点において、貴学で特筆すべき点やグッドプラクティスの事例があれば自由にご記入ください（複数ある場合は、複数の事例をご回答ください）。

4. Tipsに基づく事例検索システム

3で示したTipsは、アンケートの回答をもとに、多くの大学で共通する事項や、特徴

的かつ重要と思われる事項を整理して抽象化し、個別の Tips にまとめたものである。これにより、IR と IE を包括的に推進するために重要な要素の全体像を把握することができ、個々の大学への適用を検討することが可能である。

一方で、抽象化された Tips に相当する具体的な取組事例を閲覧することができれば、Tips の理解も進み、個々の大学への適用の検討をより深いレベルで行うことが期待できると考えられる。

そこで本稿では、これを目的として、Tips の具体的事例を検索するシステムを作成した。本システムは、利用者がオンラインでいつでも活用できること、およびメンテナンス性の高さにより、Google スプレッドシートを用いて実装した。URL は以下の通りである。また、本システムの画面イメージを図 2~4 にて示す。

IR と IE の包括的な推進に関する事例検索システム

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1QR0-Hy6Z3yZBrGDm-B3-JSj24PCmE1YmMQWddYKX8I/edit?usp=sharing>

本システムでは、3 で示したアンケートにおける自由記述の回答（質問 2, 4, 6, 8, 9）をさまざまな条件で検索できる。この自由記述には、大学を特定し得る固有名詞が含まれていることがあるため、これを一般的な語に置き換えたものを使用している。なお、本システムでは、自由記述回答の使用許可が得られた 40 名の回答のみを使用している。

本システムは、利用者の関心に応じて 5 つの観点で検索ができるように設計した。以下、それぞれについて説明する。

(1) 注目したい Tips の項目

3 で述べた 3 つの柱と 13 の Tips に関連する事例を検索できる。プルダウンメニューで各 Tips を選択すると、これに関連する事例のみが抽出される。たとえば図 2 は Tips1-1 の抽出例である。なお、各柱における Tips のいずれにも該当しない回答もあるため、柱ごとに「その他の事例等」を用意している。また、質問 9 の回答については、「その他、IE を推進するための IR 活動のグッドプラクティス等」を選択することで抽出できる。さらに、「すべての事例から検索する」を選択することで、Tips 項目ごとの抽出ではなく、すべての回答から検索を行うことも可能である（図 3）。

(2) 抽出したい回答の種類

各回答について、その内容に応じて、「実施中 or 効果あり」、「実施中だが課題あり」、「未実施 or 課題あり」の 3 つに分類しており、これを指定して抽出を行うことが可能である。たとえば図 2 は「実施中 or 効果あり」とみなせる事例を抽出した例である。

(3) 抽出したい設計形態

各回答の回答者の所属大学の設置形態（国立、公立、私立）を指定して抽出できる。たとえば図 2 は私立大学の事例のみを抽出した例である。

(4) 抽出したい大学規模

各回答の回答者の所属大学の大学規模を指定して抽出できる。大学規模は、大学院生を含む学生総数に応じて分類し、学生 8001 名以上を「大規模」、学生 4001～8000 名を「中規模」、学生 4000 名以下を「小規模」としている。たとえば図 2 は大規模大学の事例のみを抽出した例である。

(5) 検索したい語

入力した検索語を含む回答のみを抽出することが可能である（ただし現時点では単一語句のみに対応している）。たとえば図 3 は「FD」の語を含む事例を抽出した例である。

	B	C	D	E	F
1	IRとIEの包括的な推進に関する事例検索システム				
2	本システムは、「IR&IE架け橋 (bridge) プロジェクト」による「IRとIEの包括的な推進に関する調査」（2019年12月～2020年1月実施）において回答された事例の検索システムです。（詳細はシート「IRとIEの包括的な推進のためのTips」および「本システムについて」をご覧ください。）				
3					
4	注目したいTipsの項目を選択してください。				
5	《柱1：教職員や学生とのパートナーシップ》 Tips 1-1 組織設計・環境づくり				
6					
7	抽出したい回答の種類		抽出したい設置形態		
8	<input checked="" type="checkbox"/>	実施中 or 効果あり	<input type="checkbox"/>	国立	
9	<input type="checkbox"/>	実施中だが課題あり	<input type="checkbox"/>	公立	
10	<input type="checkbox"/>	未実施 or 課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	私立	
11					
12	検索したい語		抽出したい大学規模		
13			<input checked="" type="checkbox"/>	大規模（学生8001名以上）	
14			<input type="checkbox"/>	中規模（学生4001名以上8000名以下）	
15			<input type="checkbox"/>	小規模（学生4000名以下）	
16					
17	上の条件に該当する回答				
18	Tips #	回答の種類	規模	設置形態	要因や具体的事例
19	Tips 1-1	実施中 or 効果あり	大規模	私立	教学IR下にワーキンググループを教職協働で複数設置しており、タスクベースで教職員限らず、幅広く意見交換する仕組みがある。
20	Tips 1-1	実施中 or 効果あり	大規模	私立	教学IRを扱う会議体のメンバーは、教員と職員がそれぞれ選出されており、事務局がフォローする体制となっている。
21	Tips 1-1	実施中 or 効果あり	大規模	私立	事務組織である学長室系の部署内の評価・IR系のセクションがIRを、教員の委員会組織としての教育系センターにおいてFDを企画・運営していることがIEの一部を担っている。教育系センターは、学務系部署が事務担当をしています。しかしながら、この関係性は風通しが悪いので、教育系センター内に教育評価に関する委員会を作り、IE的な活動を行うこととしました。
22	Tips 1-1	実施中 or 効果あり	大規模	私立	学内のIR部署が旗振り役となり、各種学生調査や、アウトプット・アウトカムを測定する指標設定等の取り組みが進められている。

図 2 事例検索システムの画面（Tips1-1 の関連事例の検索例）¹

これらの機能を用いることで、利用者は、自身の問題意識に応じた事例検索や、所属大学と近い環境の大学の事例検索などを行うことが可能となる。

本システムは、本アンケート調査に特化したものとして作成したが、オープンなクラウドサービスにより実装しているため、何らかの事例を収集するような他の同様の調査であっても、わずかな調整を加えるのみで応用可能である。また、このようなユーザインタフェースでオープンに試行錯誤的な使用ができることで、新たな視点の発見などにもつながることが期待できる。

¹ 画面イメージは本稿執筆時のものであり、随時修正される可能性がある。

4	注目したいTipsの項目を選択してください。				
5	すべての事例から検索する				
6					
7	抽出したい回答の種類		抽出したい設置形態		
8	<input type="checkbox"/>	実施中 or 効果あり	<input checked="" type="checkbox"/>	国立	
9	<input checked="" type="checkbox"/>	実施中だが課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	公立	
10	<input checked="" type="checkbox"/>	未実施 or 課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	私立	
11					
12	検索したい語		抽出したい大学規模		
13	FD		<input checked="" type="checkbox"/>	大規模（学生8001名以上）	
14			<input checked="" type="checkbox"/>	中規模（学生4001名以上8000名以下）	
15			<input checked="" type="checkbox"/>	小規模（学生4000名以下）	
16					
17	上の条件に該当する回答				
18	Tips #	回答の種類	規模	設置形態	要因や具体的事例
19	Tips 1-1	未実施 or 課題あり	大規模	国立	地方国立大学として影響を受ける他の国立大学や私立大学がないため、大学としてうちにもっている。そのため、IRやIEなどの新しい大学改革のキーワードについて鈍感である。その点もあり、高等教育系教員を増員し、FD・SDで意識改革や組織開発等を行う努力を始めたところである。
20	Tips 1-5	実施中だが課題あり	大規模	私立	学生FDについては、他大学の事例等を聞く機会があるが必ずしも有機的に活用できているわけではないため、改めて組織化する必要性を感じていない。
21	Tips 3-3	実施中だが課題あり	大規模	公立	卒業時アンケートはFD委員会とIRセンターの連携のもとで実施され、リーダーシップへの報告とともに、とくにFD委員会において報告がなされている。ここではDPの評価も行っているが、あくまで間接評価であり、その妥当性と信頼性において、学習成果のアセスメントとしては不十分であるという認識がある。
22	Tips 3-1	実施中だが課題あり	小規模	私立	学生（在校生）調査と卒業時調査を実施して、学生の主観データの収集についてはある程度の実施サイクルが確立してきた段階であるが、英語外部試験の客観データと接合した分析は試行の段階に止まっており、各学科やカリキュラム策定、FD活動にそれらのデータ・分析を反映させるプロセスは確立されていない。

図3 事例検索システムの画面（「FD」の語を含む事例の検索例）

5. おわりに

本稿では、IRとIEの包括的推進に関する事例検索システムについて報告した。本システムにより、日本の大学における多くの具体的事例に基づいて、利用者の大学におけるIR/IEへ本Tipsを活用するための一助となることを期待している。また今後、機能改善や具体的事例の継続的な収集により本システムをより充実したものに改良するとともに、Tipsそのものの改善をめざして検討を進めたい。

【謝辞】

著者らによる「IR&IE架け橋（bridge）研究プロジェクト」の実施したアンケートへご協力いただいたみなさま、また本システムへの回答の使用許可をいただいたみなさまへ心より感謝いたします。

【参考文献】

- [1] 文部科学省高等教育局（2015）,大学における教育内容等の改革状況について（平成27年度）,文部科学省Webサイト
- [2] 浅野茂（2017）,米国におけるIR/IEの最新動向と日本への示唆,京都大学高等教育研究,23,pp.97-108
- [3] 藤原宏司（2015）,IR実務担当者からみたInstitutional Effectiveness～米国大学が社会から求められていること～,大学評価とIR,3,pp.3-10
- [4] Tomoko Torii, Nobuhiko Kondo, and Koichi Yamamoto (2020), A Holistic Approach to Successful IR/IE: The necessary conditions for creating a bridge between IR and IE, AIR Forum 2020.